



今を良くするために、私たちがやるべきこと。
未来を良くするために、私たちができること。

葛城市議会議員
なしもと
梨本ひろき
議会報告

恩送りのまちへ

議会をもっと身近に!



市議会では条例や予算など、私たちの生活に関する大切なことが話し合われています。
傍聴もしくは映像配信にて、ぜひ内容をご覧ください。

第2回定例会(予定)

令和元年6月17日(月)~

梨本ひろきは
6月議会でも
質問予定です。

傍聴を希望される方は、本会議、委員会の当日、新庄庁舎5階の議会事務局で、受付票に住所・氏名等を記入してください。
(本会議は定員25名、委員会は若干名/いずれも先着順)

*バックナンバーご希望の方は下記までお気軽にご連絡ください。

04 | 2019.Spring

葛城市の未来を見据え
~~一過性~~

↓
継続





梨本ひろき

平成30年 12月議会

平成31年 3月議会

一般質問

葛城の今、そして未来を良くするためには一過性の取組みではいけないと考えています。「継続的改善」を念頭に質問しました。

12月議会



Q1.葛城市の将来的な人口規模と、街づくりビジョンについて

平成28年に「葛城市人口ビジョン」が策定されましたが、今後の人口変動は公共施設マネジメントにも大きな影響を及ぼします。人口動向が財政や政策にもたらす影響と対策、それに伴う街づくりビジョンについて質問しました。

Q2.ごみ収集について

4P~をご覧ください!

新クリーンセンターが稼働して1年半が経過しました。現時点での収集処理コストについて、また平成30年度当初予算にある「運営業務検討」の結果報告、31年度以降の収集形態変更の予定について質問しました。



Q3.人事評価制度について

昨年6月の一般質問では、人材育成基本方針を浸透させる取組みに人事評価における面談との回答がありました。現在の人事評価制度と能力・実績主義の人事実現への取組みについて質問しました。



12月議会



私の質問の動画です。ぜひご覧ください!

3月議会



Q1.財政健全化に向けて

葛城市の現在の状態を把握し、継続的改善を目指していかなければいけません。直近の主な財政指標では、経常収支比率が若干改善されています。その要因や実施された改善策の効果について質問しました。さらに平成30年度決算での見込み、今後の改善策、財政調整基金の見通しについても質問しました。

Q2.職員研修について

職員集団研修の実績について質問し、職員人権研修、接遇マナー研修、コンプライアンス研修の3つの取組みがあるとの回答がありました。集団研修を組織改革と人材育成の機会として最大限活かすための今後の計画と、持続していくための取組みについて質問しました。

Q3.公共施設等の集約化について

これまでの質問で、市庁舎はいずれ1つにし、その他の施設については、将来的な人口規模を見通しながら検討していくとの回答がありました。現在予定している公共施設等の集約化について質問しました。

3月議会



パソコンの場合は梨本ひろきホームページのお知らせ欄をクリック

梨本ひろき  <https://nashimoto-hiroki.com/>

ごみ収集について

市民にとってごみ収集はとても大切なサービスです。質を落とさず無駄使いを減らすにはどうすべきか質問しました。



新クリーンセンターが稼働して1年半が経過した。ごみ収集は市民にとってなくてはならないサービス。継続的、安定的なサービス提供が求められる。しかし、市の財政の中では非常に大きな比率をしめる。現時点での収集処理コストについては？



平成29年4月より稼働する中で、「燃えるごみ」についての収集量とコストについて、新庄地区は直営収集で、約3,380トン、これに伴う人件費が資源ごみの割合分を差し引くと約9,280万円。収集コストはトンあたり約2万7,400円。

葛麻地区は業者委託で、約2,610トン。委託料は資源ごみの割合分を差し引くと、約3,880万円。収集コストはトンあたり約1万4,800円。

次に、葛城市一般廃棄物収集運搬処理事業協同組合に収集処理を委託している「資源ごみ」について、カン・ビン類の収集量が、約301トン、不燃ごみが約293トン、

粗大ゴミが約399トン。収集量の合計が993トン。収集処理の委託料は収集が8,663万7,000円、処理が7,263万円。委託料合計が年1億5,899万7,000円。収集コストは、トンあたり約7万3000円。(いずれも平成29年度)



「燃えるごみ」は、新庄地区と葛麻地区の収集コストの差が生じている。このコスト差について、今後の検証課題であると考え。「資源ごみ」に関しては、コスト的に問題を感じる。委託業務で以前より長期の随意契約が問題と指摘してきた。

委託費用は衛生費の大きな比率を占めている。生駒市の事例は葛城市の委託にも参考になると考える。

また、運営業務検討委託料が本年度予算で計上されているが、これについて教えてほしい。

次のページへ続く

葛城市と一番近い委託契約を行っている生駒市との比較

	葛城市	生駒市
人口	37,460人	120,741人
世帯数	14,701世帯	49,672世帯
面積	33.72km ²	53.18km ²

約3.2倍
約3.4倍
約1.58倍

委託の前提条件を整理

	葛城市	生駒市
回収ステーション	約900~1,000箇所	約1,800箇所
収集車両	市所有の車両3台貸与+委託業者1台	委託業者が全て負担
処理施設	葛城市クリーンセンター	委託業者が機械設備等を全て負担

収集車両、処理施設といったイニシャルコスト(初期投資)が大きく違う

平成29年度の収集・処理量の比較

	葛城市	生駒市
粗大ごみ+不燃ごみ	約692トン	約565トン
缶・瓶	約301トン	約1,451トン
PETボトル	契約外(直営)	約274トン

生駒市の粗大・不燃ごみが葛城市に比べて少ないのは、計算方法が影響と推測
生駒市の缶・瓶には瀬戸物や有害ごみ(葛城市では不燃)も含む

	葛城市	生駒市
委託数量合計	993トン	2,290トン
委託契約金額	1億5,899万7千円	1億9,569万5千円

約2.3倍
約1.2倍
しか差がない

